

### 総務

政策秘書室・総務部・財務部・会計課・行政委員会事務局等

(各常任委員会の所管部署)

## 庁舎の耐震化には慎重な判断と逐次報告を

【一般会計決算】  
歳入の財産管理費では、委員からは、庁舎の耐震化計画について質疑があり、執行部からは、今後の工事方法を検討するために、新築や免震等5通りの工事の概算費用が算出され、今後、検討委員会を立ち上げて検討するとの説明がありました。

防災費では、委員からは、ゲリラ豪雨が頻発している状況の中で、全市的に危機感を常に持ちながら、市民に対して防災への意識づけをお願いするとの意見がありました。

財政調整基金費では、委員からは、財政調整基金のほか各種基金分の財源でもう少し市民の要求に応じてはどうかとの意見があり、執行部からは、本市の財政は健全だが、土地開発公社への約180億円もの債務保証があり、将来負担比率はよい状況にはなく、将来に備えて計画的に積み立てていくとの説明がありました。



▲いよいよ庁舎の耐震化計画へ

ありました。

歳入の固定資産税について、委員からは、大きな土地の用途が企業からマンションに変わってきていることで税収が減り、人口が増えれば行政需要も増し、団塊の世代の退職後なども考慮すると、先を見越した政策を打ち出してもらいたいとの意見がありました。

### 健康福祉

福祉部・こども青少年部  
福祉事務所  
医療保健センター

## 市民ニーズに応えるために 既存施設の見直しを

【一般会計決算】  
民生費の留守家庭児童保育費では、現在の児童保育室は親のニーズを満たしていない部分も含まれた、子どもの建てかえもあつて、子育て支援全体の枠として、児童保育、青少年の居場所づくり等の進め方をまとめてほしいとの意見がありました。

労働費の勤労青少年ホーム費では、勤労青少年ホーム設立当時とは状況が大きく変化していることから、今後、地域のコミュニティ施設、児童館、青少年の居場所などへの転換を含めた、施設の検討が必要との意見がありました。

安定した財源確保に努力していくとの説明がありました。

【介護老人保健施設等事業特別会計決算】  
現時点での入所の待機者は93名、待機期間は約1年。通所の待機者はいないとの説明がありました。



▲時代の変化に伴う利用方法の検討が望まれる勤労青少年ホーム(福祉青少年会館)

# 委員会レポート

今定例会では、平成19年度決算をはじめ、補正予算などの議案について各常任

委員会で審査が行われました。ここに掲げたのは、各委員会で出された意見や要望の概要です。

### 文教・建設

都市整備部  
教育委員会

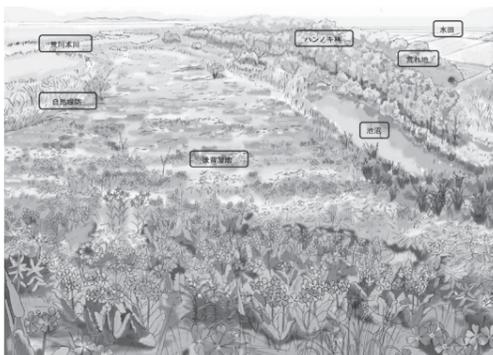
## 食材の高騰に対する 市の給食費への見解は

【一般会計決算】  
土木費・緑化対策費の街路樹維持管理業務については、最近市民から害虫の苦情が多いため、頻繁に発生する時期には集中的に消毒してほしいとの意見がありました。

戸田ヶ原自然再生事業については、市民に意義のある場所とするため、関係機関としっかり連携すること、また、多額の事業費が見込まれるため、様々な補助金の獲得に努めてほしいとの意見が出されました。

教育費の学校給食センター費では、昨今の食材の高騰に対して、本当に家計が苦しい家庭に就学援助で対応することはやむを得ないが、原則食材費は父兄負担であるため、父兄の理解を求めながら給食費を少しずつでも値上げするべきとの意見の一方で、現在物価の高騰や父兄の給料が上がらない状況にあり、本市は特に子育て世帯が多いこ

とから、厳しい父兄の生活状況に配慮し、給食費の値上げは熟慮してもらいたいとの意見が出されました。執行部からは、材料費を抑えながらも、従前と栄養やカロリーが劣らない食材を吟味し、他市の状況も踏まえながら、給食費の値上げについては慎重に対応していきたいとの答弁がありました。



▲自然の再生が今から楽しみです(かつての戸田ヶ原のイメージ)

### 市民生活

市民生活部  
消防本部  
水道部

## 地域通貨「戸田オール」 の検証を

【一般会計決算】  
行政振興費の地域通貨への助成金では、戸田オールの流通量も含めて、地域通貨について検証してもらいたいとの意見がありました。

男女共同参画センター費では、他の公共施設が使えないときに、センターの会議室が貸せていても、登録団体でなければ貸せない、団体以外の人が入っていたら貸せないことになっているが、市民感覚からすると、あいているならば貸してもらいたいとの意見があり、執行部からは、今後、指定管理者制度を導入するに当たって、市民サービス等を考えると、一般にも開放する方向性を含め検討課題になっているとの答弁がありました。

行部からは、指定管理者になったことにより、伊豆急の駅に看板を設置したり、地方紙や低料金の宿の雑誌にも掲載するようになったこと、あるいはホームページの活用、カラー浴衣の採用など、指定管理者の努力によるものであるとの説明がありました。



▲利用者が増えている市保養所「白田の湯」